

福島県内に生息する野生鳥獣の放射性セシウム濃度について

Radioactive cesium concentration of wildlife in Fukushima prefecture

溝口俊夫¹、伊藤正一²、○大町仁志¹ (¹福島県環境創造センター ²福島県生活環境部自然保護課)

はじめに

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、放射性物質による広大な範囲の環境汚染を生じさせた。自然環境に生息する野生鳥獣も例外ではなく、環境中の放射性物質を餌種などから体内に取り入れたことにより、多くの野生鳥獣において放射性セシウムが検出されている。福島県では、事故直後の2011年から狩猟者の安全・安心確保のため、主に食用に供する狩猟対象の野生鳥獣について、筋肉に含まれる放射性核種濃度のモニタリングを実施している。また、2013年からは、環境から野生鳥獣体内への放射性物質の移行メカニズムの解析等を行う「野生動物における放射性核種の動態調査」事業を行っている。事故から4年が経過し、モニタリング及び調査事業により得られた野生鳥獣の放射性セシウム濃度に関する知見について報告する。

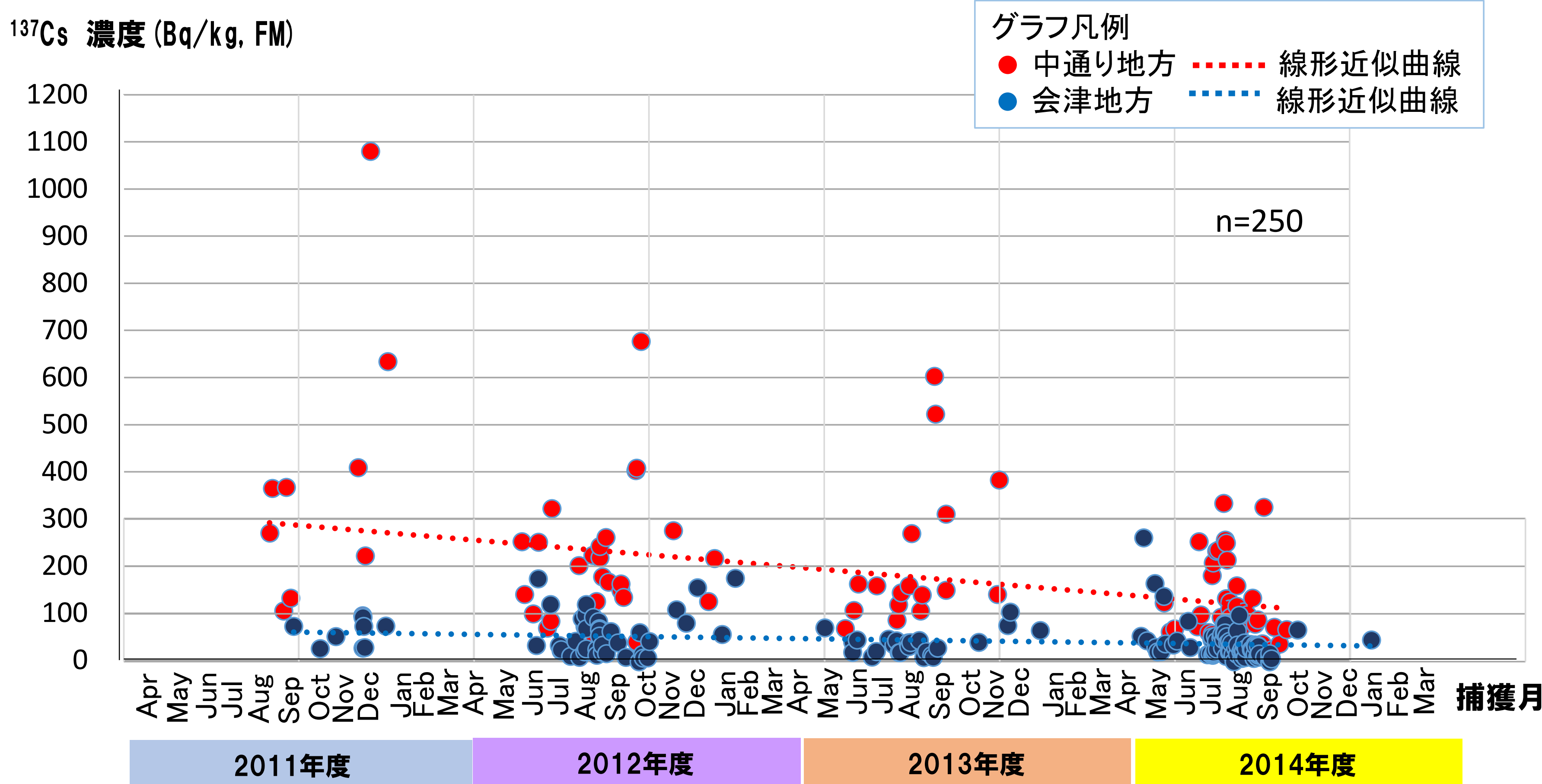
検体の処理及び測定方法

有害鳥獣捕獲許可または狩猟により捕獲された野生動物の大腿四頭筋から、約500gを採取し、筋膜や脂肪分をできるだけ除去したうえで細断し、湿重量100g程度をU-8容器に隙間なく封入する。U-8容器に封入した検体は、福島県原子力センターにおいてゲルマニウム半導体検出装置により、セシウム134及びセシウム137の定量下限値が5 Bq/kg程度となるよう測定を行った。

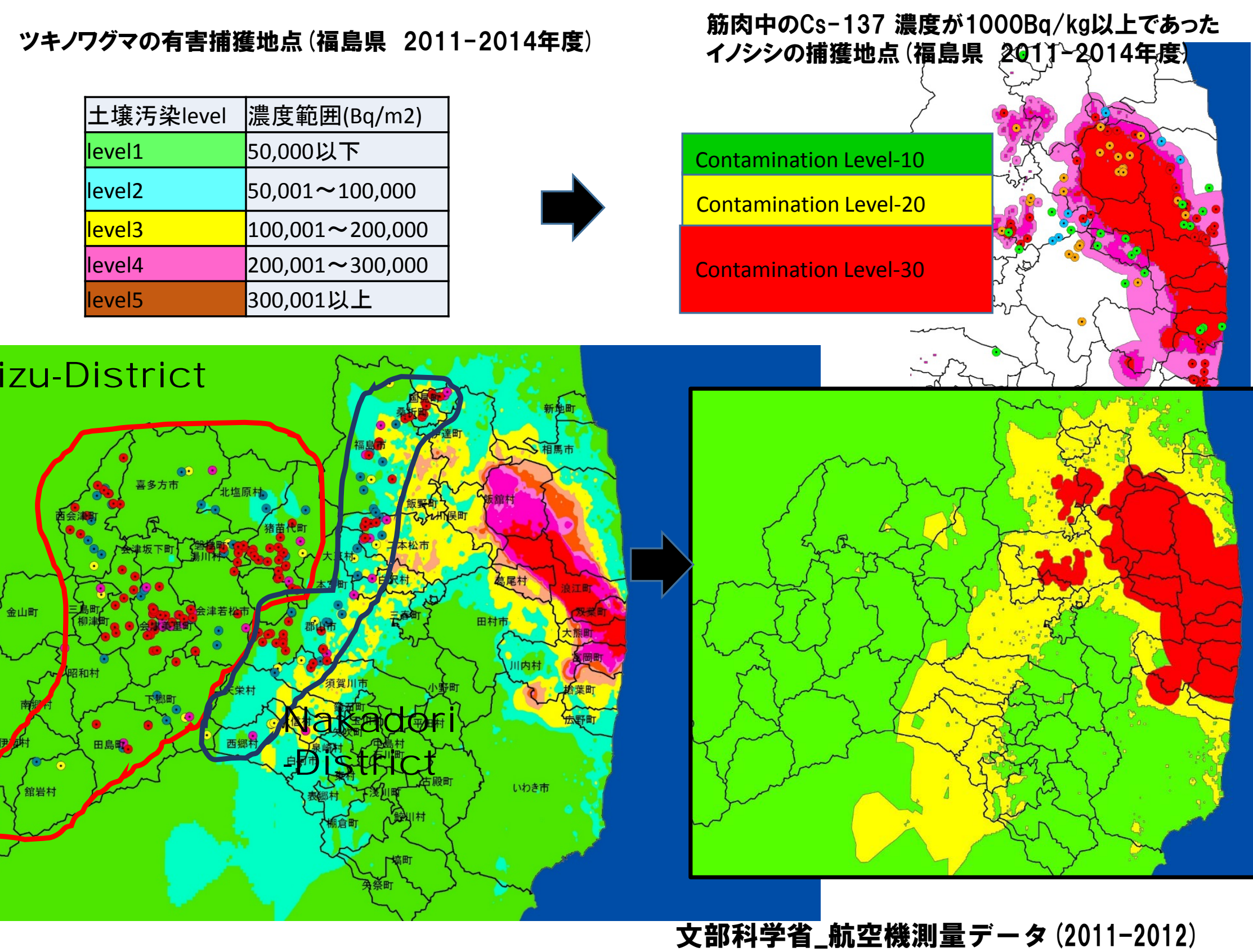


結果

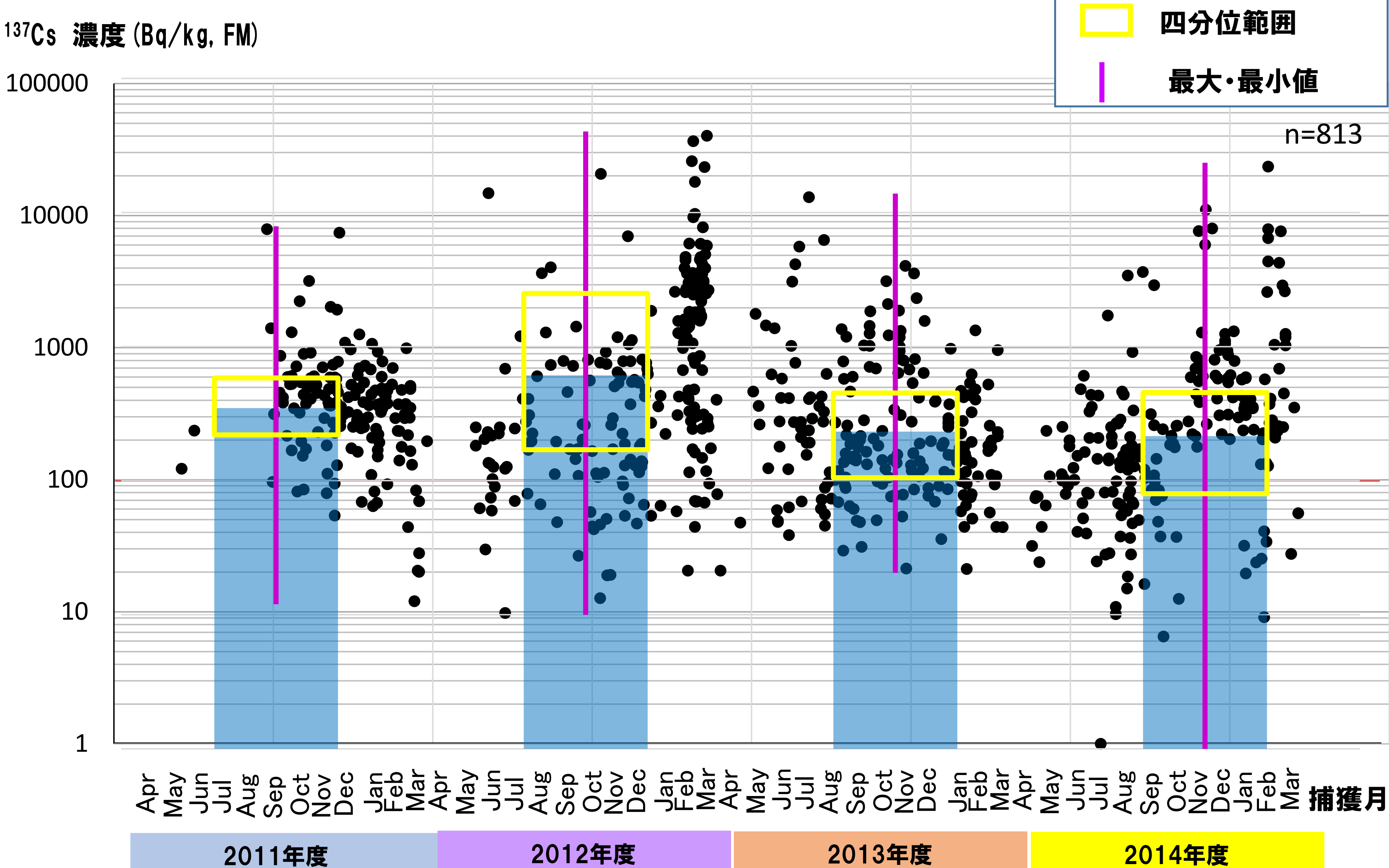
ツキノワグマの筋肉中におけるCs137濃度の時系列変化
(福島県 2011-2014年度)



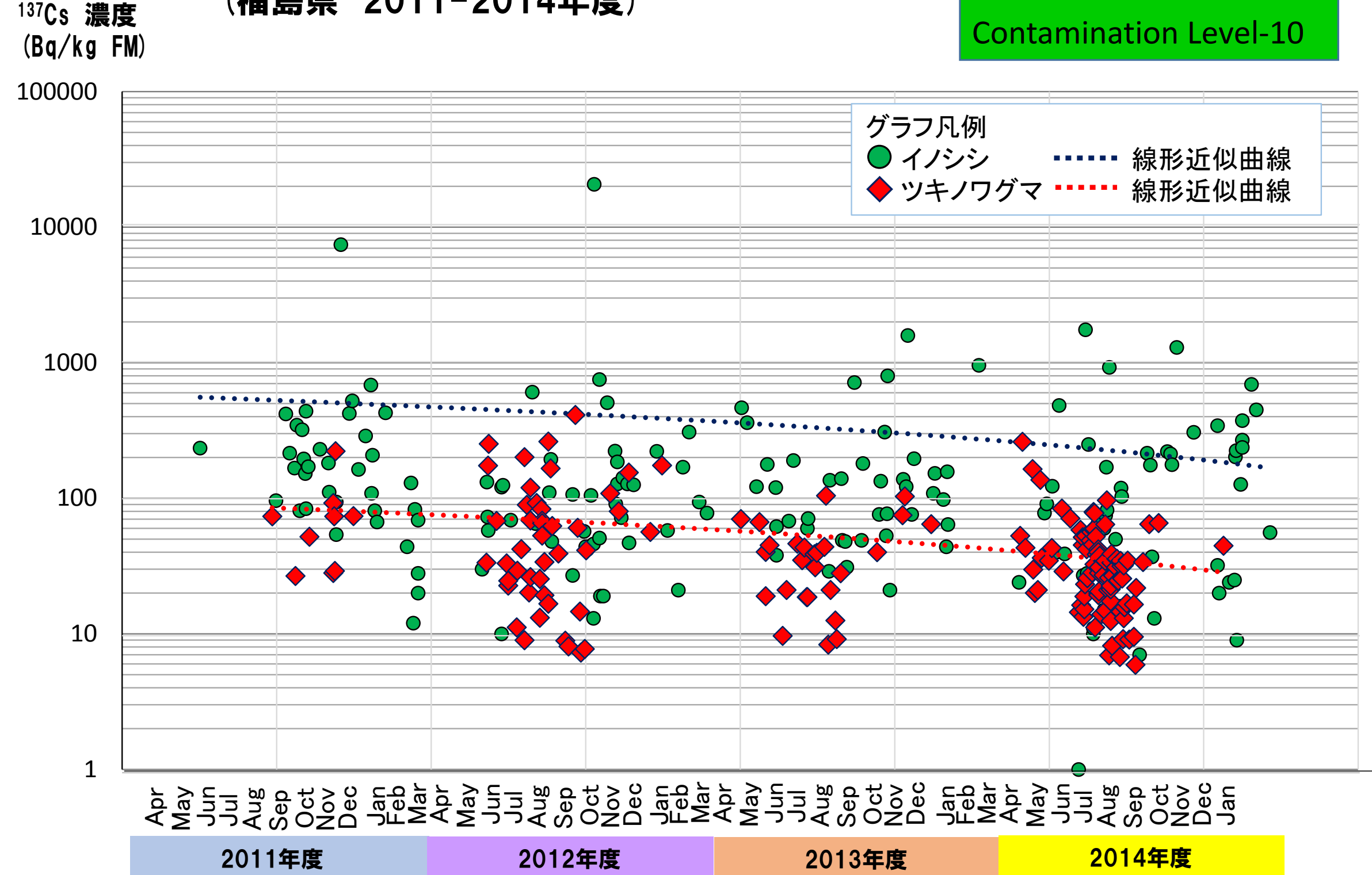
土壌汚染レベルのゾーニング



イノシシの筋肉中におけるCs137濃度の時系列変化
(福島県 2011-2014年度)



イノシシとツキノワグマの筋肉中におけるCs137濃度の時系列変化の比較
(福島県 2011-2014年度)



イノシシとツキノワグマの筋肉中におけるCs137濃度の時系列変化の比較
(福島県 2011-2014年度)

